

# 初の本大会出場へ意気込む

クラブ野球チームのマツゲン箕島硬式野球部は19日、第91回都市対抗野球大会の大阪・和歌山1次予選(日本野球連盟近畿地区連盟、毎日新聞社主催)に臨む。今季は新型コロナウイルスの影響で、連覇を目指した全日本クラブ選手権など社会人野球の大会が相次いで中止となった。都市対抗の予選は貴重な公式戦でもあり、チームは初の本大会出場を目指している。

【山口智】

## マツゲン箕島 19日に初戦

### 都市対抗野球

大阪・和歌山1次予選 7月の平日午後2時、仕事を終えた選手らがホームのマツゲン有田球場(有田市)に続々と集まってきた。35人の選手は全員、スパー「松源」に勤務する。朝から鮮魚や総菜など各部門で立ち仕事をこなし、午後から野球に打ち込んでいく。

マツゲンは2019

年、全日本クラブ選手権で2年ぶりに優勝。駒を進めた社会人野球日本選手権では初戦でトヨタ自動車(愛知)に0-1で破れたものの、強豪に善戦した。今季はクラブ選手権連覇と日本選手権での悲願の1勝を目標に掲げたが、両大会は新型コロナウイルスの影響で中止に。春先は全体練習も約1カ月間自粛した。富樫和秀主将(25)は「チームの調子は良かっただけに、気持ちの

整理が難しかった。都市対抗でリベンジを果したい」と話す。

左腕エースの和田拓也投手(26)は、自粛期間を利用して、胸回りを中心にウエートトレーニングにじっくり取り組んだという。「大会がない分、腰を据えて基礎トレーニングができた」。体重は春前と比べて3kg増えた。

「大会が少ない今季は、どのチームも死に物狂い。点を取られないピッチングで絶対に

本戦に導く」と意気込む。

一方、相次ぐ大会中止は選手の野球人生にも影響を与えてい

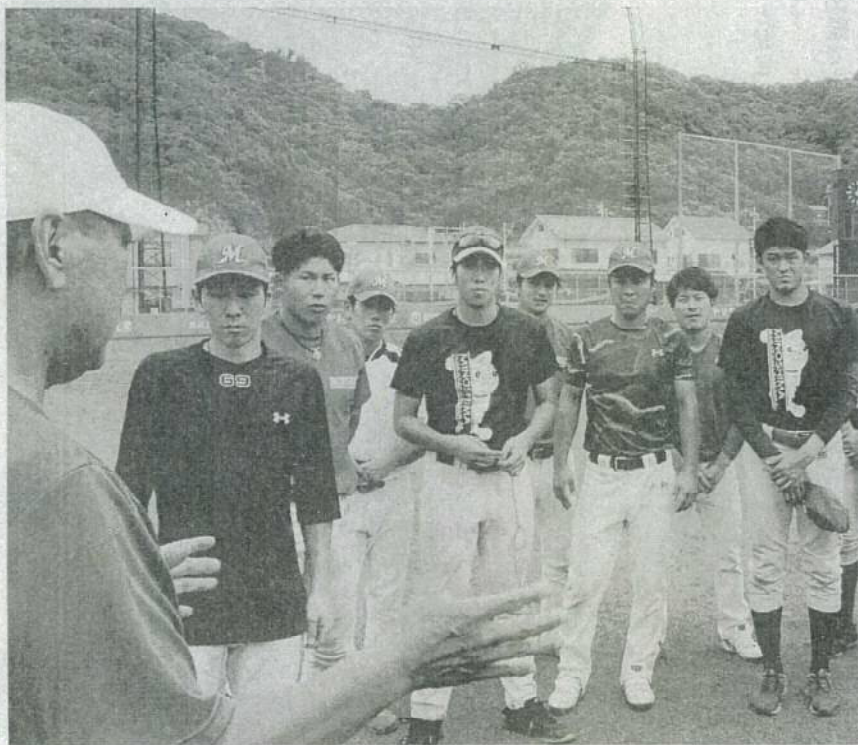
る。クラブチームでは豪の企業チームを破る20代で引退する選手も多く、毎年が「勝負の年」。今年は貴重な野球ができる時間が削られたことで、引退を迷う選手もいるという。

近畿地区で本大会に出場するためには、強

豪の企業チームを破らねばならない。西川忠宏監督(59)は今季のチームについて「歴代でも一番強い」と自信をみせる。投手陣の層の厚さと安定した守備は、いづれも例年以上の実力だという。

を追い詰めながら点が取れなかった。西川監督は「勝つためには一流の投手から確実に打

たなくてはならない」と分析する。今季は打撃を強化し、強敵打倒を狙っている。



西川忠宏監督(左)の指示を聞く選手たち  
一有田市宮崎町のマツゲン有田球場で

### 新たな歴史作る

西川忠宏監督の話  
新型コロナウイルスの影響を受ける中、たくさんの方々に応援してもらっている。練習も出場できる大会も限られるが、結果を出すことを求められている。新本大会に初出場し、新たな歴史を作りたい。



西川忠宏監督

### 全力で相手倒す

富樫和秀主将の話  
今季は新人が13人入り、元気の良さが目立つチームになった。都市対抗では一度も本大会に出場していない。挑戦者として、目の前の相手のすきを貪欲についで、全力で倒しに行く。



富樫和秀主将